

きょうちくとう

夾竹桃

Autumn

あき

2022



Zikei Hospital PR Magazine
"OLEANDER"

多職種で支える精神科医療
シリーズ第1回

精神科病院における 歯科の役割

70周年を迎えて

後期高齢者医療制度～自己負担割合の見直し(2割負担)～

ZIKEI NEWS ●外来診療時における
呼び出し方法の変更について

シリーズ【薬の剤形(カタチ)について】第4回『注射薬』



70周年を迎えて

慈圭病院は70周年を迎えました！



理事長 堀井 茂男

私たちの慈圭病院は昭和27（1952）年9月3日に創立、今年で70周年を迎えました。設立当時は72床でしたが、昭和63年に600床となり、東館のできた平成27年から570床で活動しています。歴史を言えば、閉鎖的な処遇から開放を求めて昭和37年に完全開放病棟を建設し、地域への活動として昭和34年から近所の農作業を手伝うことが院外作業（外勤）につながり、これが精神科作業療法の契機となり、昭和55年のデイケア施設の承認にも大きな役割を果たしました。社会復帰、地域移行に関しては、昭和51年に救護施設「浦安荘」を開設、同57年には家族会共同作業所「フレンズハウス」、同58年の共同住居「青葉寮」の開設、平成6年グループホーム「あおば」開設、同13年福祉ホーム「コスモス」開設と続いています。また、平成24年に岡山県認知症疾患医療センターを開設し、外来ではアルコール外来、もの忘れ外来に加えて、青年期外来、禁煙外来も積極的に行っています。

治療の面でも副作用の少ない非定型抗精神病薬や難治性精神病に用いるクロザピンなど新しい薬物療法を積極的に導入し、修正型電気けいれん療法も早期から使用しています。精神療法の面でも、内観療法や森田療法だけでなくSST（社会技術訓練）や認知行動療法、NEAR（認知機能リハビリテーション）も行い、症状の軽減、社会復帰に役立てようと努力を積み重ねてきています。このように、私たちスタッフの全員がたゆまずに務めてきたことから、中四国でも指折りの精神科病院として現在の慈圭病院があるのです。当院は臨床だけではなく、医学生や看護、MHSW、

OT、心理などの教育面でも尽力してきており、医学研究の面でも神経病理、精神神経薬理、精神療法など研究成果を上げてきています。研究面では、慈圭会精神医学研究所 青木省三所長（前川崎医科大学精神科学教室教授）が70周年と時を同じくして研究所紀要を完成、令和3年暮に70周年記念誌として発行させていただきます。

慈圭病院は、当院の理念、「わが子でも安心して任すことのできる精神科病院」のもと、当事者や家族の皆様一人ひとりによりよい医療の提供を、と、初代伊原重彦院長から、大重彌吉院長、藤田英彦院長そして堀井を経て、五代目武田俊彦院長…私たちの世代へと延々と引き継がれてきています。一人ひとりを大切にする医療、病気だけを癒す治療ではなく、こころも身体も家庭も生活も、生活全体を支える全人的医療を私たちは目指しています。そして、焦らず、慌てず、諦めず、あるがまま、（その日その日の無事を感謝して）ありがとう、「五つの“あ”療法」の気持ちで、チームで支え合い、歩んでいるのです。

現在は、コロナ禍、世界各地での争い（戦争）、地震や台風などの自然災害や困難が次から次へと押し寄せてきています。この荒波を、今後も私たち職員全員でチームとして結束し乗り越えていく所存です。コロナ禍のため、記念祝賀会は次の機会に回させていただきましたが、当事者一人ひとりを支える医療は休みなく継続しています。安全と安心、人間愛に根ざした心の医療を、私たちみんなで和をもって続けていきますので今後ともよろしくお願いいたします。

70年を迎えて、 さらに挑戦します



院長 武田 俊彦

慈圭病院は、70年前の1952年9月に現在の場所に開院しました。当時は、終戦からまだ7年しか経っておらず、浦安の干拓地は見渡す限りの田野で、今の空港線も寂しい未舗装の一本道だったようです。ちょうど、戦争中の飛行場の跡地がありその建物も一部貰い受けるかたちで72床の慈圭病院が動き始めました。

1950年代はちょうど「市民社会青年」と言われる若きエリートが登場しだした時期でした。彼らは戦中に政治的な抑圧に苦しみながら、理想的な近代市民社会の建設を夢見た人々で、戦後そのような理想に燃えた青年たちがそれまでの蓄積を糧に一齐に立ち上がり始めました。戦時中はタブー視されていた平和、民主主義、社会正義の議論が正面を切ってなされ、それまでの社会的な構造や価値観との対決が色々な場面で見られた時代でもありました。慈圭病院の設立の発起人の方々もそのような時代に突き動かされて精神科病院を設立しました。

当時としては大胆な塀のない病院設計、男性病棟での女性看護職員の勤務、研究施設の併設、24時間鍵のかからない病棟の建設、積極的リハビリテーション、隔離室の大胆な削減、自助組織や家族会の早期結成など、今では当たり前のことですが、当時としては新鮮で挑戦的な試みでした。そもそも慈圭の「圭」の字も、慈恵が当時既に市民権を得た言葉だったので、新しい病院の名前として主張が乏しいと考えた設立者たちのこだわりの結果でした。もちろん、このような病院を受け入れてくださった浦安地区の皆様のご支援があつての病院運営であつたことは申すまでもありま

せん。

現在の慈圭病院は、社会の要請に応えて、児童青年期から老年期まで県内でも有数の専門治療チームを有して、充実した医療を提供できる体制を敷いています。また、当事者の皆様の地域での生活を支えるための精神科救急医療、通院型・居住型・訪問型のリハビリテーション医療、アウトリーチ事業、多方面の支援事業者との連携業務に取り組んでいます。このような慈圭病院の現在の体制は、より良い理想の精神科医療を求めてきた取り組みの結果ですが、もちろん完成形ではありません。精神科医療が進歩するだけでなく、精神障がいを取り巻く社会の価値観、文化、空気も次第に変化します。それらの要素も機敏に取り入れて、医療サービスを向上、前進させ続けなければなりません。私たちのこのような改善の営みを突き動かしているのは、慈圭病院開院当初から受け継がれてきた正義と挑戦の文化です。

創立70周年を迎えた現在、病院の設立当時を知る職員はいません。院長の私は、勤務年数30年を超えて第二世代になります。そして、現在の病院の現場で活躍している職員は、第三世代、第四世代になります。私たち慈圭病院は、最新の医療を積極的に取り入れていくことはもちろんのこと、まだまだ乗り越えなければならない問題を多く抱える精神科医療においては、設立当時からの反骨精神を忘れず、挑戦し続けることが大切だと考えています。

多職種で支える精神科医療

シリーズ第1回

精神科病院における 歯科の役割



歯科診療医長
小出 康史

近年精神科においては、統合失調症だけでなく、うつ病や認知症の患者さんが増加傾向にあります。また、入院治療期間はより短く、さらに入院患者さんの高齢化も問題になってきています。それに伴い歯科の役割も大きく変化してきているのを肌で感じています。

一昔前、精神科に併設される歯科の役割は主にう蝕(むし歯)治療や義歯の作成、口腔ケアでした。しかし現在では歯科も他の職種と連携しながら患者さんの心と体の健康を守るために、治療を行っています。その内容を具体的に記します。

🍃 摂食・嚥下チーム

一般的に精神科疾患を有する患者さんは、摂食行動(食べるスピード、偏食、食思、嚥下機能)などが精神症状により大きな影響を受けやすく、嚥下障害を抱える患者さんが多数おられます。そこで当院では摂食・嚥下チーム(医師・歯科医師・歯科衛生士・看護師・栄養科・作業療法

士・事務部等)でその治療に対応しています。

また、薬の副作用である唾液分泌低下や感覚機能の低下・錐体外路症状(抗精神病薬などを服用した時にドーパミンの過剰な遮断によって出現する症状)、認知機能の障害などの影響でセルフケアが難しい方には病棟スタッフと連携して口腔ケアを行っています。

🍃 周術期における口腔管理

当院で入院中にがん等の手術を予定、もしくは実施した患者さんの口腔機能管理を病棟・他院と連携して行っています。正しく口腔管理を行うことで外科手術後の退院日数が少なくなった報告も多数あります。また手術の際の挿管等に伴う動揺歯の誤嚥も未然に防ぐことができます。さらに放射線治療などで影響を受けた口腔粘膜障害、唾液分泌障害の患者さんへの対応もしています。



その他

当院では精神科で行うmECT(修正型電気けいれん療法)前の歯科検診や、歯科に来院できない患者さんの往診治療、老健施設への往診、地域の小学校検診も各部署と連携して行っています。

このように多職種で連携することが患者さんの健康への一助になると考えています。

また、私の専門は歯周病ですが、この病気は「国民病」と言われるほど多くの方が罹患^{りかん}していることがわかっています。さらに、歯周病が増悪することによって、口腔内細菌の増加や炎症性サイトカインが増産されることにより、さまざまな全身疾患と関わりがあることがわかってきています＝図。このことから慈恵病院の歯科では、歯周病治療を通じて患者さんの健康を維持していきたいと考えています。

歯周病と全身疾患との関わり



〔『歯周病ってなあに』より改変〕

今後も微力ながら、歯科から多職種連携を通じて、精神科医療を支えていく所存です。

歯周病、そのほかお口でお困りのことがあればいつでもご相談ください。

[2022年7月18日(月・祝) 山陽新聞朝刊掲載]

略歴 岡山操山高校、福岡歯科大学卒業、岡山大学大学院歯周病態学分野修了。博士(歯学)。専門は主に歯周病治療。興生総合病院(三原市)などを経て2011年から慈恵病院に勤務。日本歯周病学会歯周病専門医、日本臨床歯周病学会中国四国支部理事、病院歯科介護研究会理事。

後期高齢者医療制度

～自己負担割合の見直し(2割負担)～

令和4年10月1日から、一定以上の所得のある方の医療費の自己負担割合が変わりました。

見直しの内容

令和4年10月1日から、医療機関等の窓口で支払う医療費の自己負担割合が、現行の「1割」または「3割」に、新たに「2割」が追加され、「1割」「2割」「3割」の3区分となります。

一定以上所得のある方は、現役並み所得者(3割負担)を除き、自己負担割合が「2割」になります。

令和4年9月30日まで		令和4年10月1日から	
区分	自己負担割合	区分	自己負担割合
現役並み所得者※	3割	現役並み所得者※	3割
一般所得者等	1割	一定以上所得のある方	2割
		一般所得者等	1割

自己負担割合が「2割」となる判定基準

以下の(1)(2)の両方に該当する場合は、令和4年10月1日から自己負担割合が「2割」となります。

※現役並み所得者(住民税課税所得 145万円以上)の方は3割負担となります。

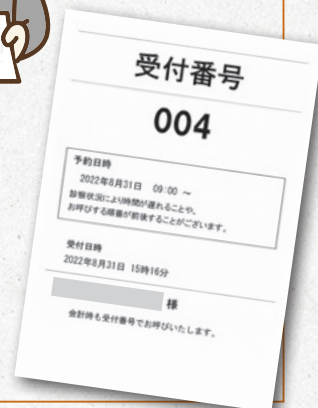
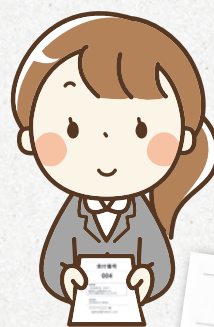
- (1) 同じ世帯の被保険者の中に住民税課税所得が28万円以上の方がいる
- (2) 同じ世帯の被保険者の「年金収入」+「その他の合計所得金額」の合計額が、被保険者が世帯に1人の場合は200万円以上、世帯に2人以上の場合は合計320万円以上である

■住民税非課税世帯の方は、1割負担となります。

10月1日以降は、新しく更新された
「後期高齢者医療被保険者証」を
当院東館1階受付に提示してください。

外来診療時における 呼び出し方法の変更について

待合室や診察室前での患者さまの呼び出しについて、当院ではこれまでお名前でお呼びしていましたが、個人情報保護とプライバシーの観点から、**令和4年10月24日**より、「受付番号」でお呼びする方法に変更しました。受付時に受付番号票をお渡しいたします。



※原則として「受付番号」でお呼びしますが、応答がない場合は「お名前」でお呼びしますので、ご了承ください。

※診察の内容等により、呼び出しが受付番号順にならない場合がありますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

シリーズ【薬の剤形(カタチ)について】

第4回 『注射薬』

このシリーズも最後になりました。最終回、第4回目は、注射薬についてお話しします。



注射薬とは

注射薬は、針を使い、皮膚や筋肉、血管から直接体内に投与される薬のことです。薬の特性により注射する場所が異なり、皮内注射、皮下注射、静脈内注射、筋肉内注射などがあります。

精神科で使う注射薬

精神科の治療で注射薬を用いるのは次のようなケースがあります。

- 薬が飲めない場合
- 速い効果を期待する場合
- 薬の飲み忘れを防ぐ場合

身体疾患などが原因で薬が飲めない場合や患者さまが飲み薬に抵抗がある場合があります。

ます。このような時は、筋肉注射や静脈注射を使います。また、内服薬より早い効果を求める場合も注射にします。

また、薬の飲み忘れが多い方などでは、持続的に効果を発揮する注射を使う場合があります。持続性注射剤(LAI)と言います。効果が2週間、4週間、3ヶ月持続するなど様々なタイプがあります。LAIは同じ成分の飲み薬を使っている方が安心して安定している方が対象です。薬の量や種類が少なくなったり、飲み薬がなくなるメリットがあります。しかし、一度注射すると次の注射の間まで、効果が長続きする分、副作用が出ると長く続いてしまうという欠点があります。

飲み薬



注射薬



貼り薬



第1回から4回まで、いろいろな剤形を紹介してきました。剤形は、それぞれの薬により異なります。医師とよく相談し、病気の状況や生活スタイル、飲みやすさなどから自分に合った剤形を選んで服薬を続けることが大切です。



外来担当医師

完全予約制

令和4年10月1日現在

診療時間

9:00～15:00

初診／受付時間

8:30～11:00

専門外来

●アルコール
●禁煙

●もの忘れ

●セカンドオピニオン

●青年期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
再診	堀井 茂男 岡田 志保 城戸 高志	石津 秀樹 難波 多鶴子 武田 俊彦 池田 智香子 清水 裕摩 青木 省三	堀井 茂男 山内 裕子 吉村 優作	武田 俊彦 石津 秀樹 安田 華枝 松下 貴紀	岡 沢郎 鷺田 健二 蜂谷 知彦 山下 理英子	定期の診察はありません
専門外来	午前 (アルコール初診) 山下 理英子	(アルコール初診) 担当医				
	午後 (アルコール再診) 堀井 茂男 (禁煙) 山下 理英子	(アルコール再診) 堀井 茂男 (禁煙) 山下 理英子	(もの忘れ) 石津 秀樹	(青年期) 担当医	(アルコール再診) 堀井 茂男 吉村 優作 山下 理英子	

慈圭病院の理念

わが子でも安心して任すことのできる 精神科病院

創立以来、職員ひとりひとりが、患者さまとご家族の信頼にたる病院であることを問い続けています。

五大基本原則

- 1 慈愛の医療**
ひとりひとりの患者さまに、慈愛と尊敬のこころをもって快適な医療を提供します。
- 2 最先端の精神科医療**
急性期医療からリハビリテーション、地域医療まで、良質で、最先端の精神科医療を実践します。
- 3 最高水準の医療倫理**
ヒューマニズムに根ざした至高の医療倫理を保ち、安全で安心、納得のいく医療を実行します。
- 4 積極的な地域貢献**
地域との連携を密接にし、精神科基幹病院としての役割をはたすとともに、こころの病の理解のための教育、啓発活動を積極的に行います。
- 5 チャレンジ精神**
私たち病院スタッフは、常にチャレンジ精神を忘れず、和の力を結集し、さらなる挑戦、実践を行います。

病院へのアクセス

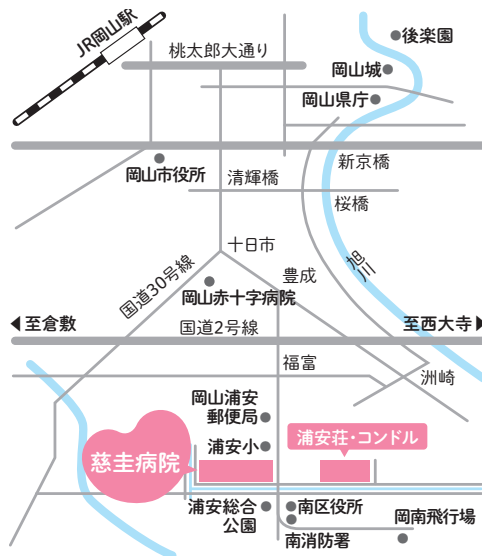
JR岡山駅より南へ約8km(浦安総合公園近く)

車で

広島方面から……国道2号線「青江」で側道へ、「豊成」交差点を南へ約10分
大阪方面から……国道2号線「福富」で側道へ、「豊成」交差点を南へ約10分

バスで

岡電バス……JR岡山駅前より「浦安体育館・岡南飛行場行」に乗り、「慈圭病院」下車(岡山駅より約30分)



お問い合わせ

(086)262-1191 受付時間 8:30～17:30

24時間

精神科救急対応

時間外・休日の急患対応いたします

ホームページもご覧ください <https://www.zikei.or.jp/>

